



## 渋谷区『新しい学校づくり』整備方針

～学校施設の未来像と建て替えロードマップ～





# はじめに

渋谷区教育委員会では、渋谷区の未来像である「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」を目指して、子供一人一人が自分の個性を伸ばし先進的で柔軟な考えを育むための教育目標を定めています。

また、学校内外における様々な教育資源を活用して、子供一人一人が自分の個性を伸ばし、未来をよりよく生きるための力を身につけることのできる『未来の学校』をつくり、学校教育と社会教育の充実を図っています。

渋谷区では、学校施設の老朽化対策が大きな課題となっています。その中で令和2年度に「渋谷区学校施設長寿命化計画」を策定しましたが、『未来の学校』をつくるためには長期的な視点から、より具体的に、これからの学校施設の考え方を示すことが必要です。

当資料は教育目標や長寿命化計画にて示した考え方を踏まえ、具体的なイメージや整備水準、ロードマップ（行程表）などを整備方針としてまとめたものです。今後、建て替えの計画を進める中で、適宜改善や見直しを図りながら、『未来の学校』の実現に向けて邁進してまいります。

## “ちがいをちからに変える”ことができる次世代人材を育む渋谷

### 渋谷区教育委員会 教育目標

- 人を大切にし、互いの違いを認め高め合う人間
- 主体的に学び続け、他者と協力して新しい価値を創造する人間
- 思いやりと規範意識をもち、健康で心身ともにたくましい人間

の育成に向けた教育を重視します。

## シブヤモデル『未来の学校』の創造

～渋谷区の教育を実現する学校施設～

# 目次

◆ 整備方針策定の目的等	1
◆ 学校施設の老朽化の状況	2
<b>◆ 渋谷区が考える これからの学校施設 “ちがいをちからに変える”渋谷ブランドの創出</b>	
快適でぬくもりを感じる生活空間	5
居心地がよく、豊かな活動を支える空間づくり	6
多様な学びを実現する可変性のある学習空間	7
地域のヒートアイランド抑制に貢献し、地球環境に配慮した学校づくり	9
環境課題を日常的に体感し、子供たちの主体的な行動を促す校舎づくり	10
みんながストレスなく活動でき、使いやすく誰にでもやさしい校舎づくり	11
機能を分散させニーズに応じて使い分け出来る「ユニバーサルデザイントイレ」	12
<b>◆ 未来の担い手を育てる学校施設づくり（教室等の整備水準）</b>	
教室 ～居心地が良い学習空間と可動性を持たせた整備～	15
教室 ～従来の教室の枠を超えた学びの場を整備～	16
教室 ～1人1台タブレット端末等にも対応したゆとりのある教室の整備～	17
ラーニング・コモンズ ～新しい学習スタイルを支援する学びの空間～	18
特別教室 ～興味・好奇心を喚起し、主体的に学習に取り組む子供を育てる空間整備～	20
特別教室 ～多目的に複数の用途に対応した教室整備～	22
特別支援学級 ～交流及び共同学習を推進し、日常的に交流が図られる教室配置～	23
ランチルーム・給食室等 ～交流を育む「食育」の場を整備～	24
放課後クラブ ～安全・安心で、自由に学び、豊かな放課後を提供する居場所を整備～	25
運動場、屋内運動場、プール ～運動場等の大きさを最大限確保～	26
職員室 ～チームで子供たちを支援し、情報共有する環境を整備～	27

## ◆ 地域とともにある学校施設づくり

学びの場を拠点とした学校と地域の「共創空間」と「地域コミュニティ」の創出	31
児童・生徒、地域住民にとって多様な学習・活動環境を創出① ～教室を地域にも開放し、児童・生徒と多様な世代との交流を促す環境を整備～	33
児童・生徒、地域住民にとって多様な学習・活動環境を創出② ～施設機能の高機能化・多機能化による新たな地域コミュニティの拠点を整備～	34
地域の避難所としての防災機能の強化① ～敷地内にアーケードを設置し、『まちの広場』として活用～	35
地域の避難所としての防災機能の強化② ～避難所運営を想定した機能と居住性に配慮した施設整備～	36
避難所の生活環境に配慮した屋内運動場の計画	37

## ◆ 新しい学校施設整備に当たっての考え方と建て替えに向けたロードマップ

新しい学校施設整備に当たっての考え方① ～学校の規模と配置～	39
学校の「規模」と「配置」についての検討	40
新しい学校施設整備に当たっての考え方② ～建て替え計画における小中一貫校化について～	41
今後の学校施設の建て替えに向けたロードマップの基本的考え方	42
渋谷区立小学校・中学校建て替えロードマップ	43
ロードマップについて	44

# 整備方針策定の目的等

- 渋谷区教育委員会では、学校施設の老朽化対策として、令和2年度に『学校施設長寿命化計画』を策定しました。この度、策定した整備方針は、この『学校施設長寿命化計画』を具体化するものとして、渋谷区が考える「これからの学校施設」と「建て替えに向けたロードマップ」を示しています。
- 整備方針の根底となる考え方には、「新たな学びの場」「環境への配慮」「地域コミュニティの拠点」の3つの柱があります。子供たちのより豊かで発展的な学びを保障していくためには充実した教育環境を確保する必要があります。同時に、学校施設は地域住民等の多くの人々が集う施設です。渋谷区基本構想の理念であるダイバーシティ&インクルージョンのもと、子供たちと学校に集う人々が“ちがいをちからに変える”ことができる学校づくりを進めていきます。



- 個々の学校の条件によっては、ここに記載した内容の全てを実現することは難しい場合があります。そのような場合であっても、「学校施設全体を学びの場」として捉え、多様な学びや活動の変化に柔軟に対応できる空間づくりを進めるとともに、地域や社会の人との交流や協働を育み、学校と地域が支え合い、学びの領域が学校外にも広がり子供一人一人の可能性を最大限に引き出すことができる学校づくりを大切にしていきます。
- 学校の建て替えについては、各施設の老朽化や劣化状況等を踏まえたロードマップに基づいた順番での工事を予定しています。  
学校によっては、工事に着手するまで期間を要する学校もありますが、全ての児童・生徒が、時代の趨勢に合った環境で等しく教育を受けることができるよう、施設改修等のタイミングで、多様な学びへの対応やバリアフリーなどの教育環境向上と施設機能の向上に努めます。
- 新しい時代の学びの実現に向け、創意工夫により特色・魅力ある豊かな教育環境を実現するためには、整備の企画の段階から学校・家庭・地域等の関係者の参画により、施設づくりの目標を共有し、理解と協力を得ながら総合的に計画を推進していく必要があります。  
各学校における計画の推進に当たっては、関係者との対話を重視して進めていきます。

## 学校施設の老朽化の状況

渋谷区立学校築年別の整備状況をみると、1960年代から1970年代前半が建築のピークであり、全体の延床面積の70.8%が旧耐震基準の建物で、築後50年以上の建物が40.4%、築後30年以上の建物が75.5%を占めており、全体的に築年数がかなり経過しています。

「渋谷区学校施設長寿命化計画」では、計画的保全による建物の長寿命化を図ることを前提として、建物の目標使用年数を80年に設定しています。長寿命化改修に当たっては、建物の躯体部分が長期間の使用に耐え得ることが必要となりますが、区立学校の築年数等を踏まえると、躯体の補修等に多くの改修コストがかかる上に、改修後の残りの使用年数が少なく、経済性の観点等から課題があるため、長寿命化改修の実施には向きません。

そのため、整備方針では、各学校が建て替え時に築80年を経過しないよう整備スケジュールを検討し、今後およそ30年間で22校について、順次建て替えを進めるロードマップを策定しています。

【図表 築年別整備状況・用途別保有量】

